

小学校

平成 14 年 度

教育研究員研究報告書

図 画 工 作

東京都教職員研修センター

平成14年度

教育研究員名簿（図画工作）

地 区	学 校 名	氏 名
新 宿 区	戸 塚 第 三 小 学 校	芳 賀 邦 正
江 東 区	枝 川 小 学 校	根 本 比 呂 美
品 川 区	上 神 明 小 学 校	田 中 明 美
荒 川 区	第 五 峡 田 小 学 校	長 谷 川 友 美
板 橋 区	蓮 根 第 二 小 学 校	餅 和 子
練 馬 区	下 石 神 井 小 学 校	若 林 健 治
足 立 区	舎 人 第 一 小 学 校	石 丸 敏 子
町 田 市	町 田 第 三 小 学 校	清 水 恵 里 子
小 平 市	小 平 第 十 二 小 学 校	吉 峯 理 恵 子
あ き る 野 市	南 秋 留 小 学 校	◎ 花 輪 潤 一

◎ 世話人

（担 当） 東京都教職員研修センター 統括指導主事 岡 本 昌 己

目 次

I 研究主題

1 研究主題について	2
------------	---

II 本研究における図画工作の考え方

1 授業の構造	3
2 子どもの思いを広げる図画工作の視点例	4
3 図画工作の基礎・基本をこう考える	6
4 現代の子どもの思い	7
5 支援と評価	8
6 子どもとの向き合い	9

III 実践授業

1 「つなげて、立てて、囲んで、基地をつくろう」（第2学年と幼稚園の交流授業）	10
2 「夏を飾ろう なつのタペストリー」（第6学年）	14
3 「ペットボトルイリュージョン」（第5学年）	16
4 「中は、ひみつの世界」（第4学年）	18
5 「ハンガー ジャングル」（第6学年）	20
6 「わたしのロボット」（第5学年）	22

IV 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果	24
2 今後の課題	24

I 研究主題

「子どもの思いを広げる図画工作」

1 研究主題について

今年度の研究を始めるにあたり、子どもたちの“思い”とはどのようなものかについて共通理解を図るために、さまざまな観点から論じ合った。「こうあったらいいな。」という希望や夢とか、「こんなことをやってみたいな。」と言う意欲、そして嬉しいとか、悲しいとか、美しいとか、すばらしいとかを感じる力ではないかななどの意見を出し合った。そして、それは子どもたち一人一人がもっているものではないかという結論にたどり着くこととなった。

たとえば、何か新しいことに出会った時、一人一人の“思い”により、自分で、「～してみよう。」とチャレンジする。こうしたいくつかの思いの広がりや繋がりを通して、さまざまな経験を重ね成長していくことが、これからの時代を生きる子どもたちに必要な力であり、このことが、いわゆる“生きる力”になっていくのではないかと考えた。

図画工作においては、心と体を通した経験から、「こんな感じで作ってみたい。」と思い、考え、試行錯誤して自ら表現していくことができる力であると言える。その力の源であり、到達点でもある自己決定する力や自分らしさを、より大きくもった子どもを今年度の研究における目指す子ども像とした。

現在の子どもたちは、さまざまな情報については溢れるぐらい摂取していても直接的な体験が少なく、自分から進んでやりたいことを見つけていくことに関しては苦手意識をもち、受動的な行動が増えている。

そのような中でも、道具の使い方や、技法を指示し熟練を目指すような授業を行うことで、一般的に言われるうまい作品やすばらしい作品は出来上がるかもしれない。しかし、それだけでは、子どもたちが満足感や充実感を味わうことができるような、思いの広がりや生きる力の育成には結び付きにくいと考える。技法の熟練のみが目的になるのではなく、技法は、思いを広げるための手立ての一つととらえ、他の手立てと併せて授業を組み立てなければならない。

では、子どもたちの思いを広げる経験を積み重ねさせることによって、どのように“生きる力”を培っていったらよいかを考えなくてはならない。図画工作は自己決定できる要素や場面が多く含まれた教科であると言える。この教科の特性を生かして、さまざまな視点や方法からこれらを検証していくこととした。

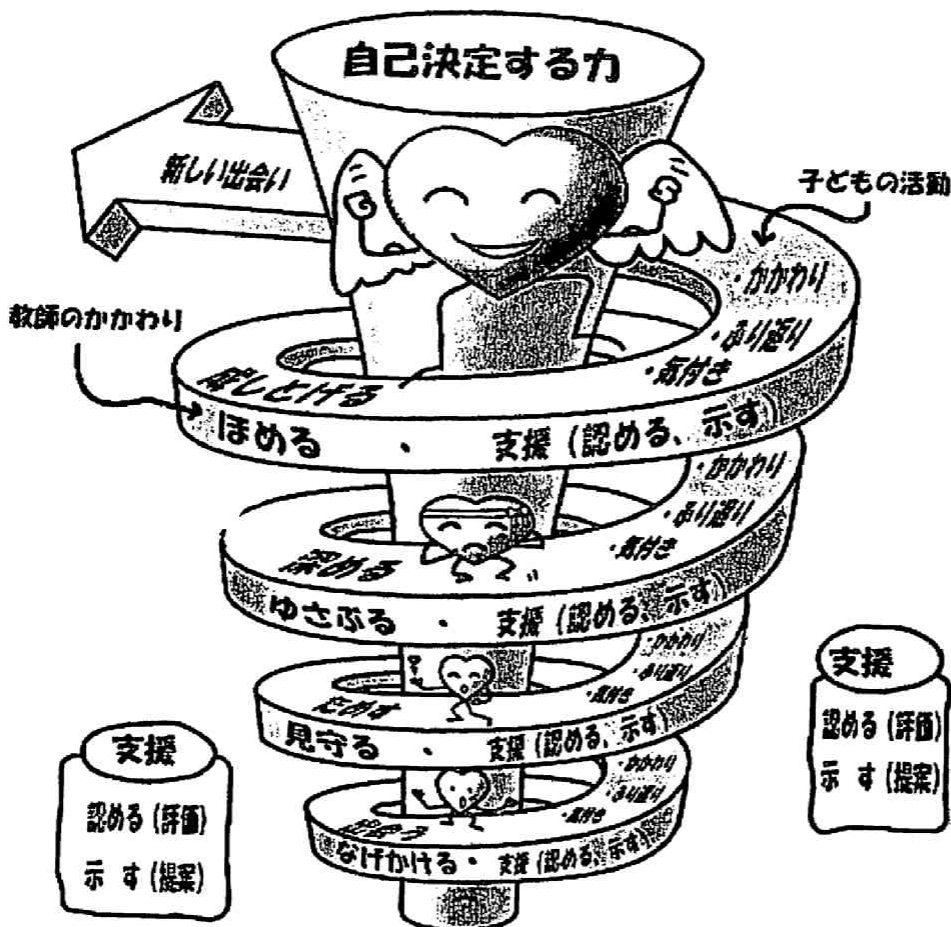
今年度、注目したことは、今まで以上に、授業のさまざまな場面において、子どもたちの思いに寄り添う授業の展開方法の工夫である。教師と子どもとのかかわり而言えば、結果に向かって一方向だけに追い立てるのではなく、子どもたちの「目に見えない活動」＝「思い」をつかみながら、その広がりがさらに増すような柔軟で発展の可能性を含んだかかわりを大切にす授業方法である。そしてそのかかわりを子どもの活動の広がり結び付けて行う指導の工夫を、“支援＝認める（評価）と示す（提案）”として位置付けた。（構造図参照）この評価と提案の方法を工夫することにより、子どもたちが自己決定する機会を増やし、自分らしさをじっくり考えるなど、さまざまに思いを広げることができるのではないかと考えた。

Ⅱ 本研究における図画工作の考え方

1 授業の構造

研究主題

子どもの思いを広げる図画工作



図画工作の活動は直線的なものではなく、たて軸の、子どもの心の育ちに沿って、らせん階段のように位相を変えながら同じところを行きつ戻りつするものだと考えた。

らせんの周回の段ごとに活動の流れを位置付け、上面を子どもの活動、側面を教師のかかわりとして表した。(ハート型の絵は子ども一人一人の思いの様子を表しています。)

		子どもの活動の広がり				教師のかかわり			
子ども		出会う	ためす	深める	成しとげる				
それぞれに	かかわり 振り返り 気づき								
教師		なげかける	見守る	ゆさぶる	ほめる				
それぞれに	認める 示す								

2 子どもの思いを広げる図画工作の視点例

視点 流れ	児童	1, 出会う	2, ためす
	教師	1, なげかける	2, 見守る
場の設定 (場や環境へのかかわり、 気付き、ふり 返り)	児童	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考え、よさ、可能性を生かせる。 自分のやりたいことを見つけられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 素材や空間を生かす工夫をする。
支援 示す (提案) 認める (評価)	教師	<ul style="list-style-type: none"> 子どものおかれた環境や実態をとらえる。 教師からのメッセージを伝える。 図工のねらいや目標をおさえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に活動できている子についてはそのよさを見守る。 発想が出にくい子については例示したり、方向付けをする。
素材用具 (素材用具へのかかわり、 気付き、ふり 返り)	児童	<ul style="list-style-type: none"> 諸感覚を働かせて素材にかかわる。 今までの経験を生かし素材や用具を使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを生かしたり、素材の特徴を生かして題材に取り組む。
支援 示す (提案) 認める (評価)	教師	<ul style="list-style-type: none"> 安全な素材や用具の使い方を指導する。 身近で扱いやすい素材を用意させたり、抵抗感、意外性のある素材を準備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発想に基づき、必要な技法や、用具の使い方を説明する。
相互行為 (造形活動を通じた友達や 教師とのかかわり、 気付き、ふり 返り)	児童	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいや教師からのメッセージを受け止める。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達に自分の構想を相談しながらつくる。 必要な部分については協力して造形活動を進める。
支援 示す (提案) 認める (評価)	教師	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいや教師からのメッセージを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの造形活動の中で特徴的なものを全体の場で紹介し参考にさせる。
試行錯誤 (造形活動を通じたかかわり、 気付き、ふり 返り)	児童	<ul style="list-style-type: none"> 授業のねらいや素材の特徴を生かし、自分の思いを広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを生かし素材を選んだり組み合わせたりし、いろいろ試す。
支援 示す (提案) 認める (評価)	教師	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自由に活動できる楽しい雰囲気をつくり導入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 努めて個々の相談にのり、方向性を示す。
自己評価 相互評価 (かかわり、 気付き、ふり 返り)	児童	<ul style="list-style-type: none"> 題材の内容をつかみ、素材の感触を楽しみ、楽しくできたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを生かし素材や用具を選び有効に使えたか。 友達と協力していろいろ試したか。
支援 示す (提案) 認める (評価)	教師	<ul style="list-style-type: none"> 感想用紙、デジカメなど、記録になるものを用意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真やビデオで子どもの造形活動の様子を記録し、つかむ。 感想用紙に友達からコメントを書いてもらう。

3, 深める	4, 成しとげる	
3, ゆさぶる	4, ほめる	
<ul style="list-style-type: none"> 素材、空間、友達、教師とのかかわりから造形行為を進め、新しい考え方、方法、価値に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 素材、空間、友達、教師とのかかわりから造形行為をさらに高め、題材を通して「私」の変化に気付く。 	→ 自己決定できる力
<ul style="list-style-type: none"> 子どもがつくりつつあるかたちについて、ちがった方向性や価値観を知らせ、考え方に広がりをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども自身がつくりあげた造形活動のよさを確認できるように認めたり、活動をふり返ったりできる場をつくる。 	
<ul style="list-style-type: none"> つくりつつあるかたちからさらに発想を広げ、完成度を高めたり、新しい素材の生かし方に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いを広げ、つくりあげたかたちの中に素材や環境、人とかかわりから生み出された自分の表現のよさを再確認する。 	→ 自己決定できる力
<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもの様々な表現の違いやよさを紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どものつくりあげたかたちの素材の生かし方のよさを全員で共有できるように紹介するとともに安全な片付けについて指導する。 	
<ul style="list-style-type: none"> つくりつつあるかたちについて友達と助言しあったり、教師の提案から、新しい自分の考え方、方法、価値に気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりあげたかたちについて、今までにない自分のよいところに気付いたり、友達表現のよさに気付いたりする。 	→ 自己決定できる力
<ul style="list-style-type: none"> 子どもがつくりあげた、かたちのよさについて認めたり、ちがった方向性や価値観を知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人が造形活動によって獲得した考え方、方法、価値を発表し合い、よさを共有させる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 自分がつくりあげたかたちのよさを確認し、友達や教師とのかかわりからさらに完成度を高めたり、新しい考え方、方法、価値をつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材を通して素材や友達、教師とかかわり、思いを高い次元で達成することから、さらなる表現意欲や主体的に物事を解決する力を培う。 	→ 自己決定できる力
<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自らの表現のよさに気づき、さらに一歩進めた価値を獲得できるように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子どもが様々な試行錯誤から到達した造形表現のよさを認め、ほめる。 	
<ul style="list-style-type: none"> 環境、素材、友達、教師とのかかわりから、どのようなことに新しく気付いたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材をふり返り、自分の思いが素材や環境、友達や教師とのかかわりの中でどのように変化していき、新しい気づき、発見、価値の獲得をしたか。 	→ 自己決定できる力
<ul style="list-style-type: none"> 写真やビデオで子どもの造形活動の様子を記録し、つかむ。 感想用紙に教師からのコメントを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想、写真、教師や友達からのコメントなどを整理し、子どもに自分の活動をふり返らせる。 	

3. 図画工作の基礎・基本をこう考える

<教科としての基礎・基本>

図画工作においては、これまで、絵に表したり、立体に表したりするための技法や手順などを、教科の基礎・基本であると考えられる傾向が見られた。

しかし、これからの図画工作においては、子どもたちの、「やってみたい、つくってみたい。」という表現活動の過程において、一人一人の子どもたちが自らの思いを表現へと結び付けるために必要な方法を選択し獲得していくことが必要である。そして、身に付けた力を、その後の学校生活等において、必要な場面でそれぞれの方法で発揮できるような力として基礎・基本を考えることが大切である。

<子どもたちにとっての基礎・基本>

図画工作における基礎・基本は建築の土台などにたとえられるが、構造や形の仕上がりなどに影響するだけでなく、建物自体が周りの環境等に応じて伸縮したり、皮膜をつくっていったりするように、風雪や寒暖などのさまざまな自然の条件等に柔軟かつ適切に対応できるような力のことだと考えられる。

これまでの図画工作においては、この考え方が十分には広がっておらず、固定的な基礎・基本というものがあり、それらは柔軟で多様であるというようには考えられていなかった。したがって、個々の子どもの特性に応じた形での定着とはなりにくく、これからの時代を生きる子どもたちのための“生きる力”となるには十分ではなかった。

“生きる力”として基礎・基本を考えたときに、それが子どもたちの必要感から自ら選択され習得したものであるなら、その子どもの生きた基礎・基本になっているのではないかと考える。

<自分らしさと基礎・基本>

図画工作においては、さまざまな題材において多様な材料・用具などとの出会い、与えられた主題や題材のねらいに対応して、自分の思いもち、それぞれの表現へと結び付けていくことが自分らしさを発揮することとなる。そして、自分らしさを発揮するためにはさまざまな場面や段階において自己決定する力が必要であり、その繰り返しの中で自分らしさあるいは個性が形成されていくと考える。このことについては、新しい学力観の考え方の中で、「基礎・基本と個性はともに育つ。基礎・基本を子どもたちが自ら獲得し、それを創造的に生かしながら、人間らしく豊かに生きていくことができるような資質や能力となるように身に付けていくことが大切である。(文部科学省)」と述べている。

したがって、学習指導のあり方も当然のことながら、子ども一人一人が自分らしさをもち、少しずつ個性を発揮できるような考え方で展開されることが必要とされる。つまり教師の示す手順を追って子どもたちが活動していくのではなく、子どもたち一人一人が気付きをもち、思いや考えを広げていく過程において、子どもの表現活動を支援していくような授業方法への転換が必要である。

子どもたちの意欲・関心を高める工夫を常に心がけ、子どもが「知りたい、できるようになりたい。」と思う「その時」に適切な「手をさしのべる」ことができることが、我々の使命であると考えられる。

4. 現代の子どもの思い

＜子どもの思いの種＞

子どもは、ある事象などに出会ったとき、色、形、音、表情、大きさ、においなどからさまざまなことに気付いたり、感じたり、考えたりする。そして自分なりに漠然ではあるかもしれないがある感情や印象をもち、さらに関係するいろいろなことを思い描く。この思い描くきっかけやこの過程の初期ことをここでは“思いの種”と表すことにする。

子どもは、それぞれ、さまざまな大きさ、色、形などをした“思いの種”をもち、外界からの刺激を受けながら“思いの種”を育てている。この種を表出させることが得意な子もいれば、苦手な子もいることだろう。

今、図画工作の授業の場面だけでなく、社会的にも、日常の経験が不足したり、バーチャル体験しかない子が増えたりしていることが問題として上げられている。溢れる早い流れの情報の中で、受け身であり、それを、あたかも獲得したかのような感覚になっていることも原因の一つである。楽しく学校生活を送り、遊びや学習を通して学びを見せている子どもたちではあるが、授業等における自己の意見発表はやや苦手であり、進んでやってみよう、手を出してみようという姿にも、まだまだ物足りなさを感じる場面も多い。

＜自然に広がる思いの種＞

子どもには子どもの世界があり、表面に出てきていない活動の中でも、子どもは、“思いの種”を少しずつ伸ばしている。そこを見取ることは難しい側面もあるが、それぞれの表現の過程において自己や他者との対話を行っており、さまざまなかかわりによる刺激などからも“思いの種”を伸ばしているのである。表現活動における“思いの種”の芽、根などの広がり、日常の中でも少しずつ子どもの中に、自然に起こっているものではないかと考える。

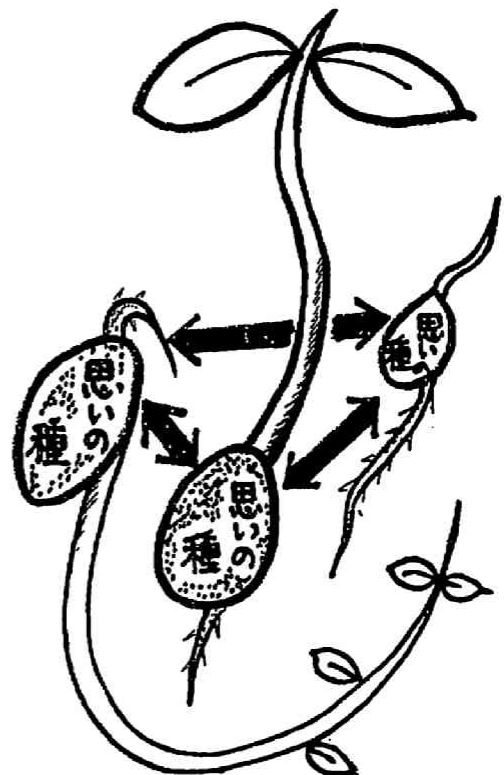
したがって、授業のさまざまな場面における子どもとのかかわりの中でも、この自然な広がり即した形での対応が必要である。

＜感じる心と思いの種＞

子どもは、個人差はあるが、育った時間の長さや多様な経験を通じたことで思いを広げ、いろいろなことを想像することができる。さらに、それまでの経験の中において、強く心を揺さぶられたり、大小にかかわらず刺激を受けた場合などは、感情や感性などの育ちへの影響も大きい。感じる心の育成を授業の中でどのように設定していくかがこれからの授業のポイントである。

＜思いの種を伸ばす手助け＞

子どもたちが、外からの刺激を身体で感じ、また、自己の思いの変容も身体で感じ、より主体的に深化し続けていけるよう、教師も一緒に、“思いの種”を伸ばす手助けをしていきたいと考える。何よりも思いを広げる活動が、子ども自身にとって、爽快で心地よいことが大切であって、その心地よさを同じ場所で共感し合う授業の展開も重要な要素である。



5. 支援と評価

前述の、子どもの“思いの種”を伸ばす方策として、指導方法の中の支援の在り方を重視して研究を進めてきた。ここで、支援と評価についてのとらえ方を以下のようにまとめてみた。

子どもが図画工作の学習活動を通して自己決定し、自己実現へ向かって思いを広げていくときには、まっすぐ平坦な道ばかりを進むことはない。むしろ、山あり谷ありの道である場合が多い。そこで教師の存在価値が生じ、支援していくことになる。だが、教師は自分の尺度で子どもに完璧を求めようとしたり教え込もうとしたりしがちである。そうした教師の一方的なかわりではなく、構造図にもあるように各段階の適切な時に適切な方法で支援・評価することで、子どもは、認められ、安心し、自信を付け、意欲をもって思いを広げて表現することができるようになる考えた。

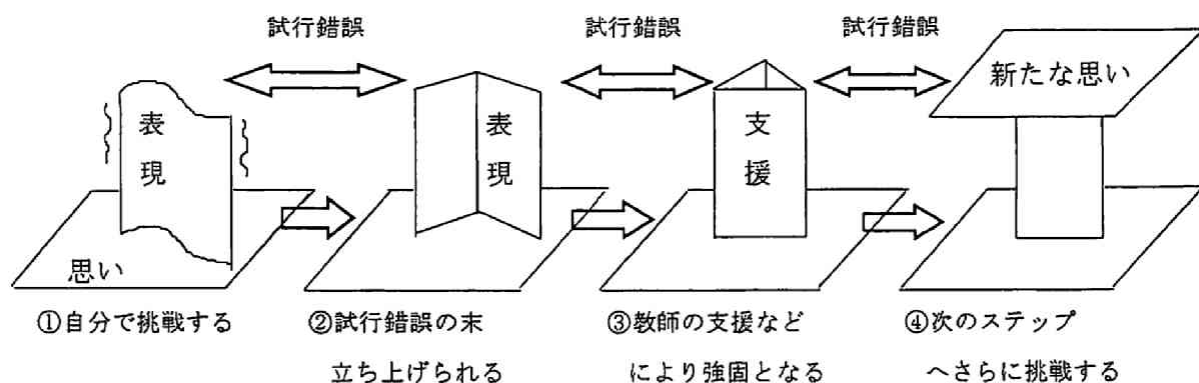
<具体的な支援について>

今年度の研究では、支援を「認める」と「示す」の二つに分けた。「認める」は評価・共感とも通じ、具体的には「言葉かけ」「身振り手振り」「うなづくこと」「まなざし・アイコンタクト」等が考えられる。「示す」は「例示」「実演」「鑑賞」「場の設定」「視点や発想の転換」「考え方」等である。

適切な支援を行うためには、さまざまな配慮をしなければならない。なぜなら、子どもたちの歩みは一樣ではなく、速度もつまずきもバラバラであるからだ。しかし、個々の様子を観察し、必要な時にその子に合ったやり方で支援することで、子どもたちは今まで見えなかった世界を発見し思いをさらに広げて行くのである。その時、どうとらえ対応するかは、子どもたちとの関係を築き、データを収集するなどの積み重ねが必要である。子どもの活動の様子から見えてくることや感じられることなどを通して少しずつ確認していく姿勢が大切である。

<思いを広げていくために>

思いを表現へとつなげ、試行錯誤しながら何とか立ち上げようとしている自己実現の柱は、適切な支援によりさらに強固なものとなり、新たな思いを生み出し次なる表現の基礎となっていくと考える。この積み重ねが思いを広げる土台となっていくのである。



<評価について>

評価については、結果としての作品のみで評価するのではなく、子どもの学習活動全体を四観点から多面的・継続的にとらえ、よいところや可能性を積極的にとらえていくことが重要である。また、今後は評価の信頼性を高めるため、説明責任を念頭に置き評価の規準を明らかにするとともに評定のための手順や方法を工夫していく必要がある。

6. 子どもとの向き合い

さて、ここまでの考察から、図工室に来る子どもたちの多様性をふまえて、図画工作を担当する教師は、どのように子どもと向き合いかわっていくことが必要であるかを考えてみる。子どもたちと授業で顔を合わせる前、「先週の授業は・・・、ああそうだったな。」「今日は、最初に何て言おうかな。」「昨日のテレビのあのことを話題にしてみようかな。」「あの子は、今日は元気かな。」などと授業の導入のこと、子どもの姿などを思い描く。

以下の三点は、今年度の研究員が常日頃から努力している子どもとの向き合い方の例として示したものである。

- (1) それぞれの子どもの発達段階や、育ちを考慮した上で、活動の内容と成果を綿密に予想することによって、個々の子どもにとって、もっとも大切であると思われる課題を精選し、追求すること。
- (2) 子ども一人一人を取り巻く物質的・人的環境や、それによって引き起こされている心身の問題などを分析し、表現活動を通してそういった問題に一生懸命に対峙している子どもを癒し、その悩みなどから解放すること。
- (3) 授業中の子どもと教師との関係性の中で、「ここだけは外すことができない」という基本的で、最も重要なある一点を押さえ、子どもがもっている芸術的な底力を引き出し、^{ひら}劈き、自然に活動をしたくなるような場を与えること。
そして個人の持ち味を最大限に発揮させるように意識を高める、あるいはそうし向けることができること。

以上のような力量や指導力を、一人の教師がすべての要素をもち合わせていることは無理であるが、自分の個性や特性などを生かし、数多くの場面に即して表現方法やかかわり方を選び教師が自ら、企画・立案し、実践していくことが重要である。

これまでに述べたことは、子どもを取り巻く環境が大きく変化している今日では、かつてのように社会が子どもに対してひとりでの社会性をもった人間を育成する教育を施すことはできない状態にあるために、教師の多様なパフォーマンスが求められることに繋がると言える。

そこで、図画工作教師は、あくまでも既成の美術を教え込むという立場ではなく、絵に表したり立体に表したり、材料をもとにした造形活動を通して共に感じ、考え、悩み、喜び合って成長しつづける大人として子どもの前に向かうことが一層必要なのである。また、学校と社会とがこれまで以上に連携協力して教育活動を行わなければならないことが多くなっていることも教師は忘れてはならない。

そして、今、目の前で起こっている、子どもの刻々と変化する瞬間をしっかりとらえ、子どもがありのままの自分を表現できる場や雰囲気をつくることが大事なのである。



Ⅲ 実 践 授 業

1. 題材名「つなげて、立てて、囲んで、基地をつくろう」(第2学年と幼稚園の交流授業)

○題材について

- ・校庭のすみに、木の枝、角材、すだれ、網状の布等を組み合わせ、2年生と幼稚園で4個の基地をつくる。
- ・すだれや網状の布にネオカラーで自分たちの思いを生かした模様や絵を描く。
- ・出来上がった基地に1年生を招待し一緒に楽しく遊ぶ。
- ・基地づくり、1年生招待、片付けの活動を総合的に体験する。
- ・自分の行為を書いたり、カメラで撮ったり、絵に表したり、自分チェックグラフにしたり友達や教師からコメントをもらったりしてふり返り、思いがどのように広がっていったかをつかむ。

○ねらい

- ・野外で大きな材料を使い、全身で活動する。
- ・すだれや網状の布など向こう側が透けて見える材料のよさを生かしてつくる。
- ・グループで協力し合い、目的をもって行動する。
- ・基地づくり、基地での遊びから、自然な形で幼小が交流し合う。
- ・自己評価、教師からのコメント、相互評価、デジカメ、ビデオの記録から、子どもに自分の活動をふり返らせ、新しい気付き、発見、価値の獲得から、自己決定できる力を培う。

○評価規準

- 関心・意欲・態度・・・野外ならではの環境を生かし体全体で基地づくりの活動を楽しもうとする。
- 構想・・・積極的に場所や素材の特徴を生かして基地づくりの活動をし、友達とかかわりながら新しいつくり方をいろいろ工夫する。
- 技能・・・つくりたいかたちにするために組み立て方を工夫し、透けて見える素材の効果を生かす。
- 鑑賞・・・グループ内や他のグループのかたち、仕組み、飾り、描かれた模様のよさを味わっている。

○学習活動の流れ(9時間)

	1. 出会う(児童) なげかける(教師) 「さあ!基地づくりの始まり!材料を切ったり、つなげたりしてみよう!」	2. ためす(児童) 見守る(教師) 「どうやって、組み立てようか?いろいろ試してみよう!」
	「わー!おもしろそー!どんな基地にしようか。」	「木の枝やすだれどうやって組み立てよう・・・?」
	学習活動	学習活動
学習活動の流れ	<p>全身で太陽の光、風を感じて、大きな材料、木の枝、角材の組立て方を考える。すだれや布の透けて見える材質や、風を通すよさを生かしてつくる。</p> <p>①材料や場所を選ぶ 「いろんな材料があるね。」 「校庭のどのへんに立てようか。」 「ねえ、どんなきちにするー?」</p> <p>②材料をのこぎりで必要な大きさに切ったり、紐、針金、ガムテープで繫げたりする。 「柱はこれくらいの長さで切ろうか?」 「紐で結ぼう!」 「針金でねじって止めよう。」 「ガムテープが楽だね!」</p>	<p>場所や素材のよさを生かし思い通りの形の基地にするために、いろいろな方法を試す。</p> <p>①骨組みを立てる。 「桜の木に縛ろう。」 「鉄棒に結ぼう。」 「テント型にしよう。」</p> <p>②簾や布で壁をつくる。 「くるくる巻いて開けたり閉めたりできるね。」 「向こう側の景色が見えるね。」 「風通しがいいね」 「できた形に繫げて、もっとのぼそうよ。」 「望遠鏡をつけよう。」 「ごさをいして、昼寝したい。」 「飾りも付けたいな。」 「宝物を隠したいな。」</p>
かかわり		
気付き		
ふり返り		
支援	鋸の使い方、ひもの結び方、ペンチを使っでの針金の止め方を指導する。	向こう側が透けて見えたり、風通しがよい素材の特徴を生かせるようにする。
承認	子どもが自由に活動できる楽しい雰囲気をつくる。	積極的に活動できている子についてはそのよさを見守る。
自己評価	ひろい こういで、おおきな ざいりょうや、すきとおる ざいりょうの よさをいかして、たのしくつくる やりかたを かんがえていますか。	じぶんの おもいどおりの きちに するために ばしよや ざいりょうの よさをいかし、ともだちときょうりよくして、いろいろな つくりかたをためていますか。
相互評価		
評価方法	感想用紙、デジカメなど、記録になるものの用意。	写真やビデオで子どもの活動を記録し、つかむ。

○準備

- ・木の枝、ひも、ロープ、針金、角材、簾、網状の布、ガムテープ、ビニールテープ、ごさ、畳のしん、畳の表面の切れ端、蛍光カラー、プリンカップ、筆、ブルーシート

○考察

《出会う》(なげかける)では、友達と相談しながら野外ならではの空間を生かしたり、様々な材料を選ぶことから一人一人の児童が思いもち、基地づくりに入っていった。実体験の不足している現代の子どもたちに、体全体で基地づくりに取り組ませたいと考えた。

《ためす》(見守る)では、友達とかかわりながらいろいろな方法にチャレンジすることで一人一人の思いを広げる。大きな材料を使ってダイナミックに形を組み立てていった。今回は2年生と幼稚園の取り組みであることから、抵抗感を少なくし、思いが持続するスピードで作業が進むように、針金やガムテープを多用してつくる設定にした。春の日差しが強い日も多いので、中に入ったときに涼しく、しかもよい雰囲気の出るすだれや網状の布を使い、向こう側の景色が透けて見える効果を生かして形を発展させた。

《深める》(揺さぶる)では、自分の思いがたくさんつまったお気に入りの基地に描く楽しさから、描画表現への抵抗感を少なくし、普段の平面に表すシンプルな活動の中でも楽しく描くきっかけになればいいと考えた。また、透き通る素材のよさを生かして色を付けることにも注目させた。

《成しとげる》(ほめる)では、しばらく校庭において他学年の児童にも開放する中で子どもたちの遊びの幅が広がり、幼小の交流が深まればよいと考えた。そんな活動から、自分の基地のよさを再確認する。つくってみた感想を話したり、教師からのコメントを送ったりする。デジタルカメラ、ビデオ等での記録から、造形活動をふり返り、自分の思いが素材や環境、友達や教師とのかかわりの中でどのように変化していき、新しい気付き、発見、価値の獲得をしたかをつかんだ。

	3, 深める (児童) ゆさぶる (教師) 「お気に入りの基地に模様や絵を描いて、もっと楽しい場所にしよう！」 「色、混ぜていいのかなー?どこにかくー?」	4, 成しとげる (児童) ほめる (教師) 「完成した基地でどんな遊びができるかな?1年生を招待しよう!」「後片付け」「始めから終わりまで活動をふり返ってみよう。」 「僕たちの基地どう?快適だね!楽しかった!」
	学習活動	評価規準
学習活動の流れ	楽しんでつくった愛着のある空間に描くことによって、描画表現への抵抗感を感じずに描く。すだれや布の透けて見える効果を感じながら、楽しんで描く。どこにどんな絵や模様を描いたらより楽しい基地になるか、友達と相談しながら進める。 ①楽しんで描く。 「基地の名前をかこう。」 「落書きみたいでいいのかなー?」 「幽霊君かいたよ。」 ②透き通るよさを感じて描く。 「かいた模様と景色が重なるね」 ③友達と相談しながら描く。 「この星形どう?」「みんなの名前かく?」「その色、使わせてー!」	野外ならではの環境を生かし、お気に入りの空間にのびのびと楽しんで表現する。向こう側が透けて見える素材のよさを感じて楽しく表現する。友達と協力して、自分たちの基地に合った絵や模様を考え楽しんで描く。 (関・構・技・鑑)
かかわり		お気に入りの基地で1年生を招待するなど楽しく過ごし、自分たちの基地のよさを再確認する。 ①基地でできる遊びを相談する。 「昼寝!」 「給食食べたい。」 「お店屋さん。」 「中で絵本を読む。」 「中から外を望遠鏡でみる。」 「トランプする。」 「宝探し。」
気付き		②1年生と基地で遊ぶ。 「中は涼しいねー。」「この望遠鏡で外をのぞいて!楽しいよ!」 「寝ころぶと空が透けて見えて、気持ちいいねー!」「どこかに宝物が隠してあるよ。探してみてー!」
ふり返り		③後片付け 「一緒に持って。」 「またやりたいね」
支援	今まで楽しくつくった活動の延長で自由にのびのびと描いてよいことを伝える。	努めて一人一人が到達した造形表現のよさや遊びのよさを認め、ほめる。
自己評価	ともだちと そうだん しながら、おきにのびのびに のびのびと たのしんでえがけていますか。すきとおる ざいりょう のよさを いかして えがけていますか。	いちねんせいを しょうたい して たのしんでもらえましたか。あんぜんに かたづけられましたか。つくりはじめから おわりまでを ふりかえって きづき はっけん がありましたか。
評価方法	感想用紙、デジカメ、ビデオで子どもの造形活動の様子を記録し、つかむ。	感想、写真、教師や友達のコメントから子どもに自分の活動をふり返らせる。

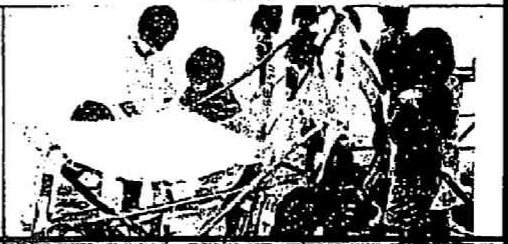
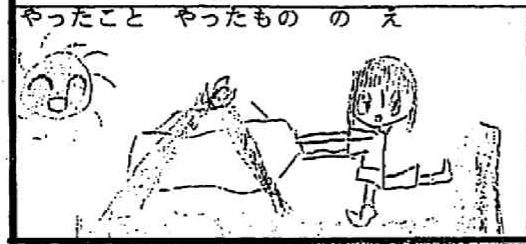


支援と評価の例	題材名「つなげて、立てて、囲んで、基地をつくろう」
---------	---------------------------

ずこうよくできたかなカード
 (2) わん(1) くみ なまえ()

やったこと さのどく
 つかつたさいりょう、どうくをだしたさいりょう、どうくをえらんでしようずにつかえたか
1. ひろい こういで、おおきな さいりょうや、すぎとおる さいりょうの よさをいかして、たのしくつくる やりかたを かんが えていますか。
 すだれからは外のくまおもらったり、たからすかさ を だしたん
 はりかねをへんちでき、たりとめたりするの か たのしかたです。

せんせいから はりかねをはりかたをきかせることも、向かいあひ、すくいまらにむきと、いひ。



2. 2. じぶんの おもいとおりの きちに よする ための ばしょや さいりょうの よさをいかし、ともだちときょうりよくして、 いろいろな つくりかたを ためていいますか。
 一番 右の すだれ の ところを テレビ ぼくする か と か の そう だん し た。

3. 3. ともだちと そうだん しながら、お きにいりの ばしょに のびのびと たの しんで えが けていいますか。 すぎとおる さいりょう の よさを いか して えが けていいますか。
 すきとおった の に あか と あ げ た け い ほ し と か お い は い か い た の で き れ い だ つ た。

ともだちから はりか ね を つ け た り か ん は つ た お

ともだちから いろ を め る の に いろ か な な り た 橋

せんせいから テレビ ぼく する と 楽 しいた。

せんせいから 絵 の 具 が 足 り を が た た る 同 じ 互 い た 中。



じぶんチェック	0	1	2	3	4	5
a たのしくできたか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
b さいりょう、どうくをえらんでしようずにつかえたか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
c ともだちときょうりよくできたか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
d いろいろためしたか	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
e あたらしくきづいたこと	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
f やつてみてよかったこと、おもいがひろがったこと	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

4. 4. いろいろ な ひと を しょうたい して たの しんで もら えましたか。 あん せん に か た づ け ら れ ま したか。 つ くり は じ め か ら お わ り ま で を ふ り か え っ て き づ き は っ け ん が あ り ま したか。
 や す み じ か ん に 自 分 か い は い は い り ま し た、
 み ん な で あ ん せん に き お つ け て か た づ け ま し た。
 す お し い が ん い が あ つ て よ か た つ つ て い ち に ふ ね の や

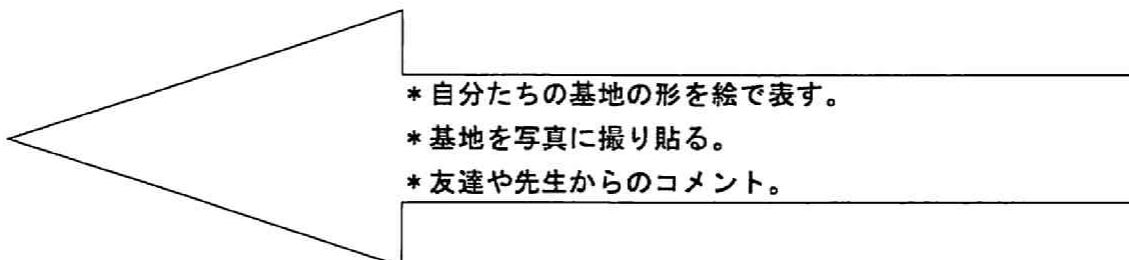
な、開 き に な つ た の で、み ん な の お お た い だ ね と い い ま し た。 ふ ね の き ち も、
か い せ と み た い で、す づ く お お し ら か つ た で、き ま た や り た い て き

「ずこうよくできたかなカード」の活用について

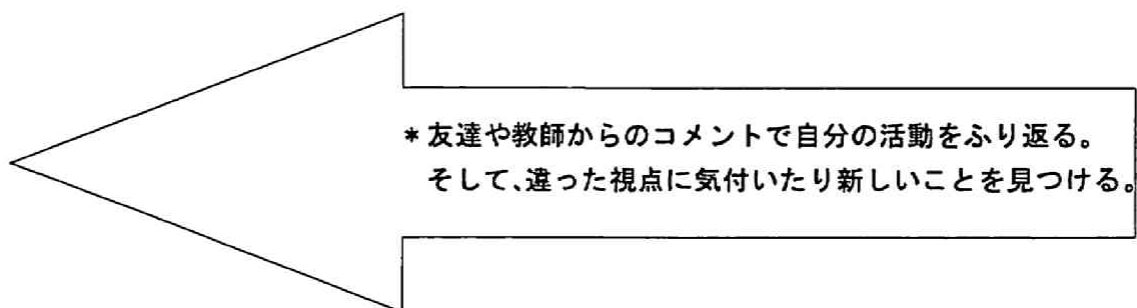
子どもはどのようにして、つくる行為を媒介にして、友達とかかわり合いながら、さまざまな新しい意味をつくりだしていったり、自分自身「私」をつくり直したりしていくのだろうか。自分のやったことを言葉で書いたり、デジタルカメラで撮ったり、絵やイラストにしたり、チェックグラフに表したり、友達や教師からコメントをもらったりするなど、さまざまな方法で記録し、ふり返ることから自分の思いがどのように広がっていったかをつかむことができる。

出会う・・・活動の後1，まで記入。教師からのコメント。

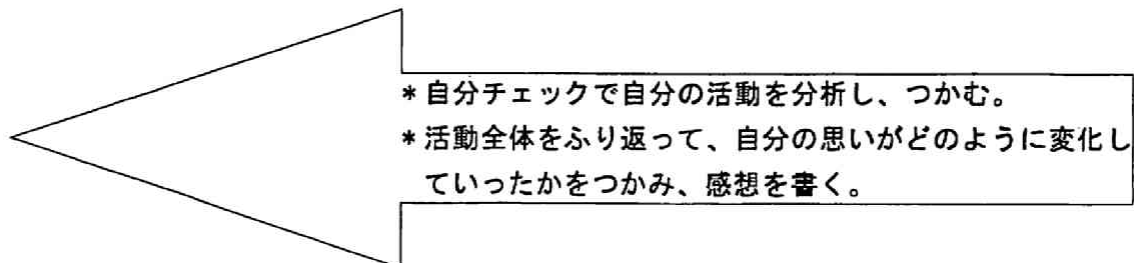
ためす・・・活動の後2，まで記入。



深める・・・活動の後3，まで記入。



成しとげる・・・活動の後4，まで記入。完成した物の写真を貼る。



2. 題材名 「夏を飾ろう なつのタペストリー」 (第6学年)

○題材について

暑い夏を涼しく過ごすために家庭に持ち帰って使うことのできるものとして、身近なタペストリーを考えた。麻布のざっくりとした手触りと質感、透けて見える感じは子どもにとって新鮮である。日頃あまり使用しない素材を使うことにより心をゆさぶり、意欲を高め、今までにないイメージを引き出そうと考えた。

○題材のねらい

○育てたい資質・能力

- ・自分なりの夏のイメージを麻布を画面として構成することができる。

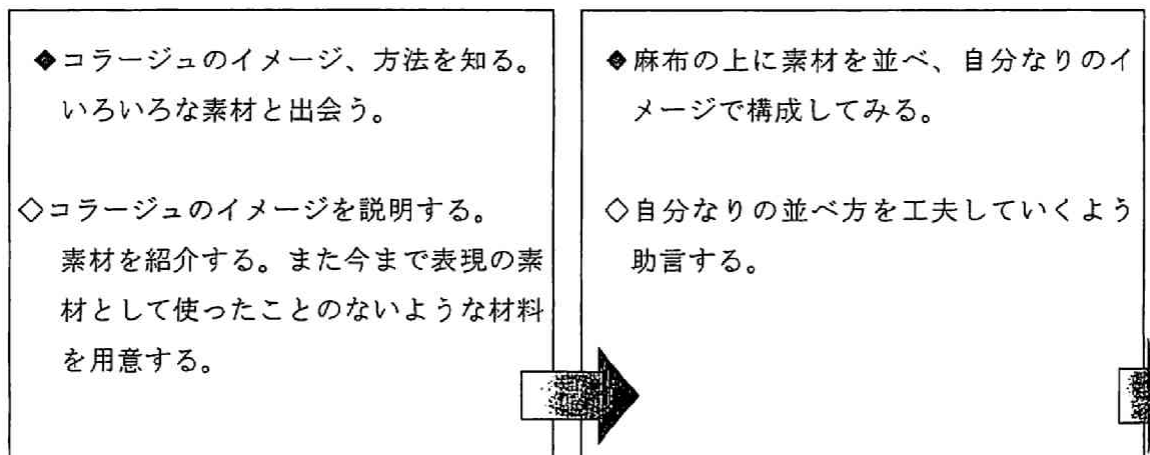
○材料・用具・表現方法に関する資質・能力

- ・いろいろな材料から発想し、また発想から必要な材料を選ぶことができる。
- ・質感など材料のもつよさを生かすことができる。
- ・用具を正しく、安全に使うことができる。

○学習の流れ

◆子ども ◇教師 <出会う>

<ためす>



学習活動におけるの評価規準 (関…関心・意欲・態度 構…発想・構想の能力 技…創造的な技能 鑑…鑑賞の能力)

<p>・素材や表現方法に興味をもつ。 (関)</p>	<p>・自分なりのイメージで構成している。 ・素材のよさを生かしている。 (関・構)</p>
--------------------------------	--

○題材の評価規準

○関心・意欲・態度 素材や表現方法を楽しみながら表現に取り組んでいる。	○発想・構想の能力 素材のもつよさを生かしながら自分の思いを表現している。
○創造的な技能 用具を正しく、安全に使っている。	○鑑賞の能力 友達の作品のよさを感じ、認めている。

○材料・用具

麻布（50×50cm）、ガラス片、貝殻、毛糸、麻糸、布きれ、接着剤、工作カラー、篠竹、デジタルカメラ

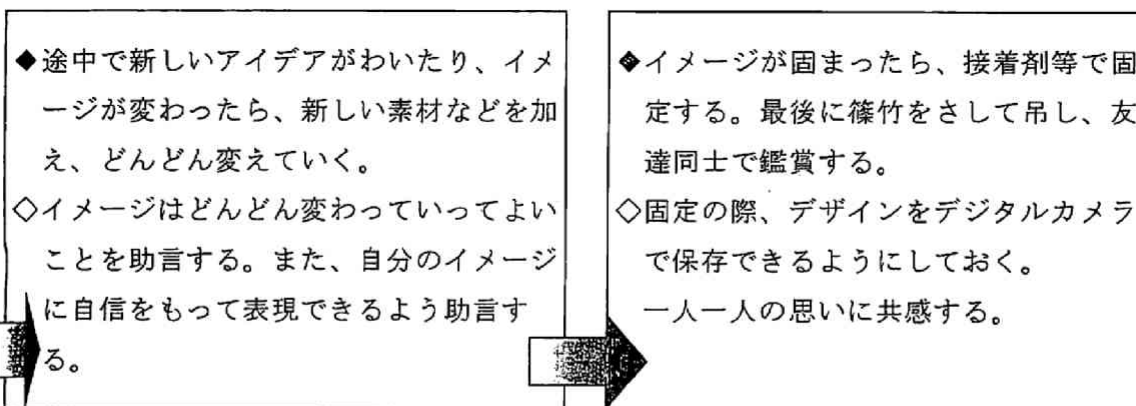
○考察

今回の題材では、出会いによる新鮮さは子どもの意欲を十分引き出すことができ、今までにないイメージを湧き上がらせることができた。また、活動途中で友達の作品を見ながら新たなアイデア・イメージをつかみ、それを自分の表現に生かしていく姿も見られた。

自然な互いの鑑賞が、表現を深めて、新たな自分の表現を見い出していくという相互作用の大切さを痛感した。

<深める>

<成しとげる>



・自分なりのイメージをより発展させている。
・素材のよさを生かしている
・用具を正しく安全に使っている。
(関・構・技)

・自分なりのイメージを作り出すことができている。
・用具を安全に正しく使っている。
・友達の作品のよさを感じ、認めることができる。
(関・構・技・鑑)

3. 題材名「ペットボトルイリュージョン」(第5学年)

○題材について

身近な材料で高学年の造形遊びを設定した。ペットボトルは入手しやすく、透明で密閉できる。色水をつくって中に入れ、ふたをして並べる活動を通して、ひとときの色と光の幻影(イリュージョン)を楽しみ、色と光に対する思いを広げることを目指した。

○題材のねらい

まず個々が自分の色づくりをすることにより、混色・濃淡・バランス等の基礎を確認、再発見する。そしてできた色水入りペットボトルを並べていくことで光を考慮した色彩構成について考える。活動中には友達の様子を見たり、相談したり、協力したりして、今の子どもたちに身に付けさせたいコミュニケーション能力を高められるようにする。

○題材の評価規準

関心・意欲・態度・・・積極的に色づくりの試行錯誤に取り組む。

発想・構想の能力・・・与えられた言葉からイメージする色をつくり出す。できたものを次にどうしたいか考える。

創造的な技能・・・人と違った自分の納得できる色をつくり分量のバランスを考える。ペットボトルの並べ方を工夫する。

鑑賞の能力・・・自分のつくったものと友達のとつくったものを比較したり調和を考えたりする。全体の構成を自分なりに評価する。

○学習の流れ

出会う

- ・色彩魔法学の実験という設定。
- ・魔法の絵の具(シロップ)を使ってペットボトルに色水を入れてみよう。
- ・「夢色」「夏色」「自分色」をつくってみよう。

- ・シロップの甘い香りを楽しみながら、諸感覚を働かせて・・・



ためす

- ・失敗したり、気に入らなかったら作り直してみよう。

- ・混ぜるのは、絵の具+絵の具、絵の具+水・・・

- ・シロップだけでなく水彩絵の具も使ってよい。
- ・シロップと水彩絵の具の違いは？



○学習の評価規準と方法

- ・色水をつくることに興味をもち、手順を考え進んで取り組もうとしている。

(関・構)

- ・ワークシートにメモをする。

- ・混色や濃淡についていろいろと試行錯誤している。(関・構・技)

- ・色への思いを広げている。

- ・デジタルカメラで活動を記録する。

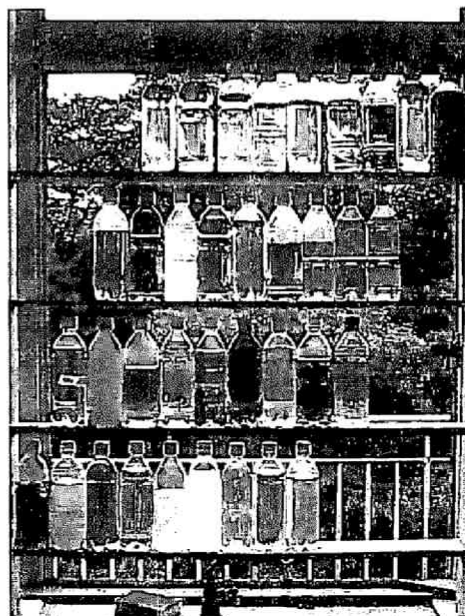
○準備・

500ccのペットボトル（1人当たり2～3本・底にビニールテープを貼り記名しておく）、プリンカップ（混色用）、バケツ、水を入れた大きめのペットボトル、魔法の絵の具（かき氷用シロップ・赤・青・黄・緑）、水彩絵の具、筆、デジタルカメラ、プリンター。窓辺に奥行き9cm4段の棚を設置しておく。

○考察

色水つくりは、低学年から高学年まで発達の段階に応じて楽しめ、試行錯誤しやすい題材であった。さらに大きなペットボトルを用意し、6年生でも同様に取り組んだが、色合いや濃淡に素直に感動する声が聞かれた。

シロップは、きれいに混色ができ透明感が出せ、甘い香りとともに子どもの感覚を刺激し思いを広げることができた。また、並べたペットボトルをすぐにデジタルカメラで写しプリンターで印刷することで全体を一つの作品として認識し、次の並べ替えに移ることができた。機器の活用で内容に幅を出すことができた。また、次の活動への思いも広がった。



深める

- ・窓辺の棚の好きな場所に好きなように置く。友達のペットボトルにはさわらない。
- ・窓の外の風景や友達のペットボトルを意識しながら2～3本目もつくる。

- ・全員が並べたら、デジタルカメラで撮影しプリントアウトする。



成しとげる

- ・班ごとに相談して並べ替えをする。その都度デジタルカメラで写し、プリントアウトする。
- ・次にどのような活動がしたいか考えワークシートに記入する。
- ・校内の好きな場所に持って行って並べ、撮影する。
- ・作品展の装飾として飾り多くの人に見てもらう。



- ・友達の様子やできたものに興味をもち話し合ったり協力したりする。
- ・並べることを考え工夫している。

(関・鑑・技・鑑)

- ・デジタルカメラの画像を鑑賞し、その後の活動へと思いを広げている。

(鑑・構)

- ・ワークシートに記入する。

4. 題材名 「中は、ひみつの世界」(第4学年)

○題材について

「中に入ってみたくなる空間」とは、子どもたちにとってどんな世界だろう？この題材では自分だけの「ひみつの世界」ができる期待で子どもの思いを強く刺激し、自分の表現を追求しようとする思い(自己決定できる力)を育てたいと考えた。大きなダンボールは折ったり丸めたり立てかけたりする事で簡単に空間づくりができ、手軽に加工しながら造形活動ができると期待した。計画の段階で自分が使いたい必要な材料を考えさせ、材料集めも投げかける。場の設定は図工室の他に広い廊下や体育館・校庭などを利用し、カタツムリのように「ひみつの世界」を移動させて活動したりできるようにした。友達と繋げたり、他学年の子どもたちに見てもらったりすることで満足感や達成感も深めさせたい。評価は児童への声かけやカードの記入、ビデオ・写真などの映像をもとに適宜行い、教師自らも子どもと場と時間を共有しながら取り組んでいきたい。

○題材のねらい

- ・大きなダンボールの中に入ってひみつの世界をつくることで、自分の夢や思いを広げる。
- ・ダンボールの特性を生かして加工し、材料や用具を工夫して使い、心地よい空間を表現する。

○題材の評価規準



関心・意欲・態度・・・ひみつの世界に関心を持ち、ダンボールで出来た空間を味わいながら造形活動を楽しもうとする。

発想・構想の能力・・・ダンボールに自分らしい装飾や楽しいアイデア・仕掛けを加えながら、思いや表現を広げる。

創造的な技能・・・自ら選んだ材料や用具を試行錯誤しながら使い、心地よいひみつの世界ができるよう工夫する。

鑑賞の能力・・・友達とかかわりながら表現を広げ、見て、遊び、美しさや楽しさを味わう。

♥教師 ◎子ども <出会う>

学 習 の 流 れ	1・大きなダンボールの 中に入ってみよう! ♥海の中。夜の世界。くつろぐ世界。 真っ暗な中で寝てみたい...		<ためす>
	◎どんなふうにし てみたい?使いた い材料や道具が あったら計画プ リントにま めよう!	2・思い通りに やってみよう! ♥中は暗いよ。電気がつけたい ドアが動くようにしたい...	
評 価 規 準	♥ひみつの世界のイメージをもち、意欲的にダンボールとかかわりながら空間づくりをしている。 ◎ 計画プリントやダンボールとかかわる様子を見ながら関心をもっているか観察し、読み取る。 (計画プリント・聞き取り・つくりつつあるもの)		♥材料や道具を試行錯誤しながら使って、ダンボールを思い通りの形にしている。 ◎ 一人一人の活動に声をかけ、見守る。 (表現の過程、完成した空間、材料・道具の使い方、どんな思いが広がっているか聞き取り読みとる。)

- 準備 ・教師・ダンボール板、ダンボールカッター、ガムテープ、接着剤、カラーペン、色画用紙
 児童の計画用紙にある必要な材料、計画・鑑賞プリント、カメラ・ビデオ
 ・子ども・動きやすい服装、はさみ、のり、セロテープ、自分で集めた必要な材料

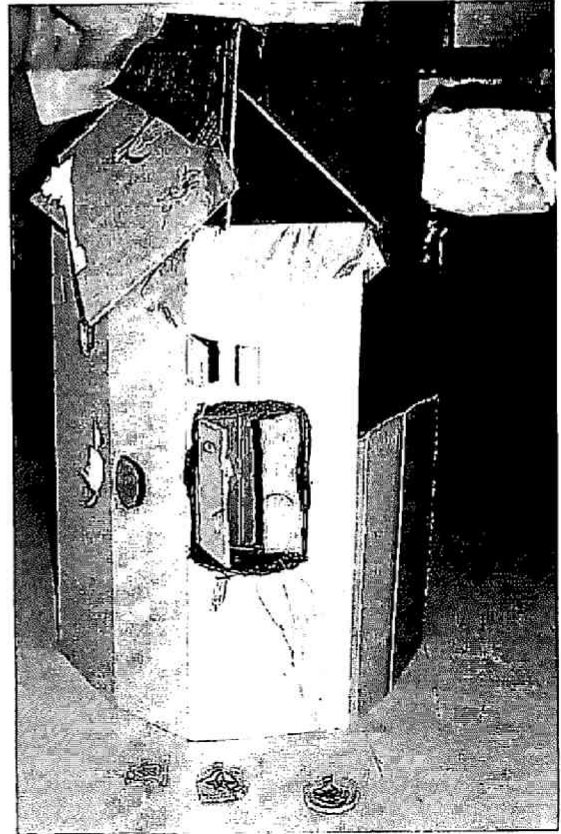
○考察

子どもたちの中には「何もない世界」「隠れられる世界」「一人になれる世界」など、心の奥深く潜むものを探りたいと感じさせる思いをもつ子もいた。

初めにもった思いを大事に大きく膨らませながら製作する子と、どんどん変化していく子がいた。どちらの場合もその活動を認め、励まし、支援を続けた。

美しい装飾や楽しい仕掛けづくりをするだけでなく、中にもぐってくつろいだり、友達とつなげたりしながら遊びを通して思いを広げていく子も多くいた。後者は作品だけではそのよさが分からない。体全体を使って楽しく空間を味わっている姿を評価し、子どもたちが心の中で自分のひみつの世界を膨らませている様子に気付く、それをゆさぶる声かけをした。

普段はなかなか自分の思いをもてない子も、ダンボールの中に入る心地よさを感じながらいつもより自分の思いを広げ、自分で考えて試してみる姿が見られた。

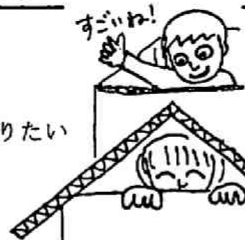


<深める>

3・ひみつの世界

をひろげよう!

- ♥きれいに飾りたい、色をぬりたい
- まと当てをつくったよ!
- 引っぱると取れるよ、



穴をいっぱい開けたよ…
 思いの広がり…中に家具をつ
 ける、動く仕掛けをつくる、中に入
 って楽しむ、友達とつなげたり、
 アイディアを分け合う(2時間)

◎もっといいこと、
 できるかな?
 友達の世界も
 のぞいてみよう!
 つなげたりして
 もいいよ。

- ♥思いを広げ、飾りや遊べる仕掛けを加えたりして、自分らしい表現を深めている。友達の工夫を見たり遊んだりしながら、さらに工夫している。
- ◎工夫したところを認め、ほめたり励ましたり提案をしたりする。(表現の過程、できた空間、聞き取り、ビデオ・カメラ記録、友達との交流、身体表現)

<成しとげる>

4・ひみつの世界

であそぼう!

- ♥見に来てほしい!見に行きたい!
- 〇〇ちゃんのお家、寝られるよ!
- 引っ越ししたい、廊下に置こう、
- 持って帰って遊びたいな…



自己評価・相互評価…自分の
 世界に満足する、友達のよい
 ところに気付く、仲良く遊びな
 がら表現を味わう(2時間)

◎わあステキ!
 ◎君らしいね!
 いいアイデアだ
 ね!写真を撮らせ
 て!感じたことを
 まとめよう。

- ♥ひみつの世界で楽しく遊びながら、自己評価・相互評価をする鑑賞カードにまとめる。
- ◎一人一人の活動をほめる。鑑賞カードやイラストから子どもの活動をふり返り、コメントを入れ写真と共に渡す。
 (出来た空間、鑑賞カード、発表・発言、身体表現)

学
習
の
流
れ

評
価
規
準

5. 題材名 「ハンガー ジャングル」 (第6学年)

○題材について



高学年になると、なかなか自分の思いを表せない、体全体を使って表現できない・・・。そんな言葉がよく聞かれる。子どもたちは、その発達段階に応じての育ちがあるならば、少しずつ思いを広げていけるはずであるが、いろいろな壁が子どもたちを閉ざしてしまうことがある。

クリーニングの針金ハンガーを繋げていくという一見単純な活動だが、床からハンガーを組み合わせて立ち上げたり、ハンガーが本来からもつ要素である「吊す」ということからの素材・行為との出会いによって、子どもを刺激し、子どもの思いがより広がるのではないかと考えた。また、友達との相談の時間も設定し、自分だけでなく、友達とのかかわりによって子どもの思いがよりゆすぶられ、自然と思いが広げられるのではないかと考えた。そして、組み合わせを付けたり取ったりが簡単であり、この面でも子どもの思いを広げる要素となる。組み合わせられたハンガーから、空間の美しさにも気づき、思いが広がることにより、表現する心地よさも感じてくれることを願った。

○題材のねらい

- ・素材(ハンガー)の組み合わせ活動から、自分が表したい思いを見つけ広げる。
- ・ハンガーの形・組み合わせの美しさや面白さを、造形感覚を働かせて構想し、表そうとする。
- ・一つのハンガーからも、いろいろな組み合わせや表し方があることに気付いたり、組み合わせによる空間の美しさの感じや友達の表現のよさにも気付いたりして味わうことができる。

○学習の流れ
(2時間)

	＜出会う＞	＜ためす＞
<p>子どもの思い</p> 	<p>＜教師＞ たくさんのハンガーがあるよ。組み合わせて「ハンガージャングルジム」をつくろう。</p> <p>＜子ども＞ わあ。何本使ってもいいの。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>どのように組み合わせようか、グループで相談 どこで組もうか、ハンガーを並べてみる・・・</p> </div> <p>＜教師＞ なげかけ</p> <p style="text-align: center;">床からでも、吊していいよ。</p>	<p>＜教師＞ いろいろな繋ぎ方をやってみよう。</p> <p>＜子ども＞ 組み合わせたら、こんな形になったよ。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>平面的に並べる ・平面を組み合わせて立体にする ・三角形、六角形等を規則的に並べてみる・・・</p> </div> <p>＜教師＞ 見守る</p> <p style="text-align: center;">すごい形の発見だね。</p>
<p>学習活動における評価規準</p> 	<p>・ハンガーの形に興味をもち、いろいろな形に並べる。</p> <p>・並べ方を変えては、自分の好きな並べ方を思いついている。</p> <p>★評価方法＜関・構＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表情や活動の動きから意欲的に表現しているかを観察し読み取る。 ・つぶやきを聞き取る。 	<p>・ハンガーの形を生かして、つくってみたい形をイメージしながら並べる。</p> <p>・組み合わせの美しさを表すために、いろいろな組み合わせを考えている。</p> <p>・いろいろな形をつくるために、テープの貼り方を工夫する。</p> <p>★評価方法＜関・構・技・鑑＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組み合わせの活動の表れから読み取る。 ・友達とのかかわりの様子から読み取る。

○題材の評価規準

- 関心・意欲・態度・・・体全体を使い、針金ハンガーの組み合わせを楽しみながら表現に挑んでいる。
- 発想・構想の能力・・・針金ハンガーを並べながら、繋ぎ方をいろいろ発想しては、思いや表現方法を広げている。
- 創造的な技能・・・組み合わせから、立体的にハンガーを組み、ためしては、吊したり置いたりしながら、経験したことを生かして表現している。
- 鑑賞の能力・・・同じグループや他のグループの友達の表現を見ては、その面白さや空間の美しさを味わっている。

○準備

針金ハンガー、セロファンテープ、ワイヤー、アルミ線、ブラックライト、延長コード、カメラ、脚立、はさみ、蛍光絵の具

○考察

- 《出会い》(投げかける)では、たくさんの数のハンガーのそれ自体の面白さに興味をもち、グループで相談しながら、まず、自分の「思い」をもっていった。
 - 《ためす》(見守る)段階では、平面的に組み合わせていく子、大きく立体的に繋げていく子など、少しずつ「思い」が広がっていった。
 - 《深める》(ゆさぶる)段階では、グループ内での一人一人の「思い」が伸びて広がるように、声かけをしていった。子どもたちは、頭の中で、繋げる構想をもちながら進めていった。
 - 《成しとげる》(ほめる)段階では、伸びていく子どもたちの「思い」を見つけ、認め、発言する言葉などからも評価していった。
- ハンガーを繋げていくという点では、偶然からも形は生まれるので、それぞれの子どもが取り組めることができ、その子どもの造形感覚を通して表現していった。しかし、繋げる行為よりも、ハンガー自体の形の面白さから自分の中に発想が湧き起こり、一つの形に集中してつくり、その形をつくることによって、自分の中で完結してしまった子どもも見られた。

<深める>

<成しとげる>

<p><教師> 離れて見ると感じが違うね。</p> <p><子ども> もっと、ここに下げてもうか。つくったものが重いけどどうしたらいいかな。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>つくったものを吊す・置いてみる ・同じグループで繋げる・友達の組み合わせを見る・</p> </div> <p><教師> ゆさぶる</p> <p>他のグループにも素敵な所は、教えてあげよう。</p>	<p><教師> ハンガーとハンガーの出会いの方が素敵だね。ブラックライトの光を当ててみよう。</p> <p><子ども> 離れて見ると違うね。暗くして見ると、わあすごい。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>空間の中での形の美しさやブラックライトによる線材の美しさを知る ・友達の表し方のよさに気づき、味わう・・・</p> </div> <p><教師> ほめる</p> <p>よさを見つけて声をかけよう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">自己決定する力</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">新しい出会い</div> <div style="text-align: center;">↓</div> <div style="text-align: center;">←</div>
<ul style="list-style-type: none"> ハンガーを組み合わせたものの面白さを見つけ、さらに工夫して組み合わせをしようとしている。 ハンガーで自分の思いになるように構想し、形や構成を工夫しながら表現している。 経験を生かしながら吊し方や繋ぎ方を工夫している。 <p>★評価方法<関・構・技・鑑></p> <ul style="list-style-type: none"> 友達とのかかわり方を見る。 工夫した場所を聞いてみる。 ビデオカメラ等で記録する。 表現した作品を参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じグループや他のグループの友達と、組み合わせを見合い、よさを見つけて味わっている。 <p>★評価方法<関・鑑></p> <ul style="list-style-type: none"> 友達との会話、つぶやきを聞く。 鑑賞の様子から読みとる。 表現したもの、ビデオカメラ等の記録から読み取る。 	

6 題材名 「わたしのロボット」(第5学年)

○題材について

工作用紙を使ってできる、広がるいろいろなかたち……。自分で決めた楽しいかたちのロボットをつくりあげる。細かいところも自分なりの工夫をし、作品に名前も付けてかわいがるなど、完成後も作品を楽しむ体験ができる。思いが広がり、いろいろなところに置いてデジタルカメラで撮影もしたくなるような活動を期待した。

○題材のねらい

- ・紙のできるいろいろなことを考え、かたちづくる力をつける。
- ・展開図も含めて考えられるよう、空間認識を高めていく。
- ・学校の中で自分が決めた場所に作品を置いて楽しめる。



○学習の流れ(4時間)

<p>子どもの 思い</p>	<p>1. 出会う(児童) なげかける(教師) これは紙のロボットです。みんなも工作用紙を使ってロボットをつくってみよう! 「おもしろそう! どんなのにしよう?」</p>	<p>2. ためす(児童) 見守る(教師) どうやったらサイコロになる? いろいろなかたちをつくってみよう! 切ってみよう! 貼ってみよう!</p>
<p>場の設定</p>	<p>いつもの図工室で、大きなイーゼルを使って小さな完成作品を見せる。使う道具は工作用紙とのり、はさみなど、使い慣れたものであることを知る。</p>	<p>思ったかたちにするには、どのように工夫したらいい? どんどんつくってつけてみよう! 友達はどんなふうに行っているかな?</p>
<p>素材用具</p>	<p>算数で学習する展開図の考え方を使得て考える。(図工での造形なので、少し切ったり貼ったりできる。)</p>	
<p>相互行為</p>	<p>切り方や、折り方の注意を思い出してみよう。</p>	<p>基本の形を示し、かたちづくるのが苦手な子に分かりやすくする。</p>
<p>試行錯誤</p>	<p>分りやすく立方体を例に展開図の説明をする。動物の形でもいいことを伝え、思いがふくらむようにする。</p>	<p>思い通りのかたちにするため意欲的に試して努力できる。 (作品やビデオ)</p>
<p>支援</p>	<p>興味をもって話を聞き、計画的に下描きができる。 (ビデオで表情や様子を撮影)</p>	<p>思い通りのかたちにするため意欲的に試して努力できる。 (作品やビデオ)</p>
<p>学習の 評価規準</p>	<p>興味をもって話を聞き、計画的に下描きができる。 (ビデオで表情や様子を撮影)</p>	<p>思い通りのかたちにするため意欲的に試して努力できる。 (作品やビデオ)</p>

○題材の評価規準

関心・意欲・態度 -- 表現したいという気持ちをもって、楽しみながらいろいろなかたちをつくらうとしている。

発想・構想の能力 -- いろいろなかたちを発想して、思い、表現を広げることができる。

創造的な技能 -- 組み合わせを試したり、細かいところまで自分の思ったことを表現することができる。


鑑賞の能力 -- 友達によさや工夫に気付き、自分の表現に生かそうとすることができる。

○準備 工作用紙、のり、はさみ、定規、コンパス、穴あけパンチ、筆記用具

○考察

特に新しい素材ではないが、いろいろな造形の基礎となる空間認識の力をつけることができる。また、手軽な素材でもあり普段の休み時間や家でつくりたいと言う子も見られる。

つくりたいことがいろいろな方向に発展して、思いが広がり、自由に造形できるようになっていった。

子どもの 思い	<p>3. 深める (児童) ゆさぶる (教師)</p> <p>細かいところの工夫をしてみよう。 リアルな感じになるようにするには...。自分のロボットに名前を付けると、もっと愛着がわく。</p>	<p>4. 成しとげる (児童) ほめる (教師)</p> <p>できあがったら一人一人、作品を気に入った場所に置いて撮影してみる。 始めから終わりまでをふり返る。</p>
場の設定	穴あけパンチで丸く切れた工作用紙を貼り付けたり、顔をつくったり。細かい工夫もしてみる。	できあがった作品をポーズなどもつけながら、好きな場所に置いてデジタルカメラで撮影してみる。
素材用具	手はどういうふう？頭にアンテナをつけようかな。	
相互行為	友達のロボットと合体するようにしたいな！	友達のおもしろくできているなあそこで撮ったらおもしろいぞー！ 1年生や、2年生に見せたらどうかな。
試行錯誤		もっとやりたい。ほかのもつくりたい。
支援	パンチでできた穴を使ったり、細かいかたちづくりもできることを示す。 アイデアのいいものはほめる。	カメラの操作の仕方。感想用紙で、始めから終わりまでの活動をふり返らせる。よさを認め、ほめる。
学習の 評価規準	工夫して作業ができる。友達の作品のよさや工夫に気付き、自分の表現に生かすことができる。(感想用紙、作品)	場のよさに気付いて、作品を生かした扱いができる。友達の表現のよさも味わえる。(感想用紙、作品、記録)

IV. 研究の成果と今後の課題

1. 研究の成果

授業をどのように展開し、どのように働きかけ（支援）をしていけば、子どもたちの「思い」を広げることができるのかを研究主題とし、実践授業を通して研究を深めてきた。

子どもの思いを広げる授業の視点として〈場の設定〉〈素材用具〉〈相互行為〉〈試行錯誤〉〈自己評価・相互評価〉が重要であると考えて授業を組み立てた。また、授業展開時におけるそれぞれの視点に、教師と児童、児童相互の「示す（提案）」や「認める（評価）」といった支援を位置付け、子どもの思いを見取ることを授業の中で重視した。

〈場の設定〉 机の配置を変えたり、活動場所を校庭へ移したりと環境を変えることにより、子どもたちは、その条件に合わせて活動の可能性について思いを広げることができた。

〈素材用具〉 諸感覚を刺激する新鮮な材料や、すでに経験のある親しみやすい素材は、子どもたちの思いを抵抗感なく広げる。また、技能的に難しいと思われる活動では、気付きを促すために見本を用意したり、簡単な方法や用具を提示したりすると、子どもの思いを広げる手助けになることが分かった。

〈相互行為〉 「だれと何のために一緒にやろう」といった教師の呼びかけに子どもたちの共感が得られると、子どもたちは思いを広げ協力し合って造形活動を進めることができる。

〈試行錯誤〉 子どもたちが、素材に触れたり試したりしてみて、その特徴をつかみ思いを広げるためには、十分に時間を確保するとともに、自由な雰囲気づくりが必要である。

〈自己評価・相互評価〉 「自己評価カード」（記録・写真・友達や先生からのコメント『ホメホメカード』など）の活用により、子どもたちの思いが授業の展開に応じて、どのように変容して行ったかを理解することができた。また、今まで活動の結果を測るものであった評価から、学習活動中の子どもの試行錯誤を把握しながら評価することができるようになった。また、相互評価を取り入れることにより、子どもたちに価値観の共有による自信が生まれ、自信が次の意欲になり、さらに、表現活動への思いをふくらませることが分かった。

また、授業では、なげかける、見守る、ゆさぶる、ほめるの段階を設定したことにより、子どもの思いを広げるための教師のかかわり方や役目を段階や場面ごとに確認することができた。以上のように、子どもたちの思いを広げるための条件や方法を研究してきたが、教師が子どもの思いを広げるための身近な言葉かけや手法などを取り入れることにより、子どもたちの表現活動は、確実に豊かになることが分かった。

さらに、図画工作における基礎・基本、支援と評価、子どもの思いの有り様、教師の向き合い方などについても、考え方をまとめた。これらにより図画工作の教科の姿をはっきりとさせ、学校教育の中での位置付けや役割を確認することができた。

2. 今後の課題

数々の実践授業の中から魅力ある授業展開における共通の要素を取り出して、検証してきた。しかし、材料が同じでも題材の設定の仕方が違うだけで、子どもの思いの広がりが変わってくることも事実である。今後さらに子どもたちが意欲的に取り組み、その思いを深めていこうとする題材を探るとともに、子どもの意欲をより一層喚起する相互評価の在り方についての研究を深めたい。